Times21
デンタルタイムス21
平成28年3月15日

患者さんを幸せにできるクリニシャンに

明海大 歯科総合医育成コース資格称号授与式

明海大学歯学部生涯研修部は3月4日、2015年度「歯科総合医育成コース」資格称号授与式を新宿区内の明海大学・朝日大学歯科医師生涯研修センターで開催、中嶌裕歯科総合医評価機構長（明海大学歯学部長）から白石康裕氏に資格称号が授与された。白石氏は日本大学歯学部を2005年に卒業。局部床義歯科に7年間在籍した後、千葉県内で勤務医として働きながら本コースを受講し今日に至った。

本コースは、知識・技術・人間性に優れ、国民に寄与する歯科医師の養成を目的に2014年度から制度化されたもの。クリニカルベーシックコースおよびクリニカルステップアップコースを修了した「エクセレントクリニシャン」として、白石氏に資格称号を与えられた。

中央の白石氏と研修センター関係者

中嶌評価機構長は冒頭の挨拶で「歯学部を卒業すればデンティストになることはできるが、それがクリニシャンであるかどうかは、また別の問題である。クリニシャンであってこそ、歯科医療を通じて患者さんを幸せにすることができる。クリニシャンであることのプライド、重要性を認識しなければならないと考えている。エクセレントクリニシャンとしての第一歩となるが、今後とも引き続き精進を続けレベルアップを図っていただくことを期待する」とした。

また、中嶌評価機構長は質疑の中で、本コースが目指すクリニシャンの在り方について「現在の歯学教育は過去とは異なり、歯学部を卒業すれば直に患者さんを診ることができるというレベルには至っていない。加えて教育内容が増加しており、知識偏重型の歯科医師を養成しているのが現実である。国家試験に合格して1年間臨床研修を行っても、患者さんが満足するような治療はできないのが現状である。そこで、本学ではレベルの高い治療を目標とし、基礎からしっかり積み上げていきたいと考え、本コースを創設している。スペシャリストも重要だが、一般の患者さんからすれば、歯科全般の治療や予防ができる歯科医師が望まれていることから、歯科総合医育成コースでは、高いレベルで広範囲な視野を持った治療ができることを目指している。加えて、自分ができないことはスペシャリストを紹介するというように、総合的な判断ができることが理想と思う」との考えを示した。